内海ITU事務総局長

ジュネーブ便り

（2002年9月）

◎内海総局長から

ジュネーブは、この夏、暑い日が続きました。干ばつで苦しんでいる多くの地域があるなか、ヨーロッパでは大変な洪水の被害が出ました。異常な気象は、誰の目にも、明らかになっています。しかし、ヨハネスブルクの地球サミットでは、大きく踏み込んだ合意ができませんでした。全体の利益のために、自己の利益を少し犠牲にして合意するということは、個人のレベルでも、国のレベルでも、この民主主義の時代には、なかなか難しいことのようです。20世紀は、民主主義で花開きましたが、21世紀は、民主主義で苦しむ世紀になるかもしれません。

ドミニカ共和国では、叙勲の栄を受け、スペインでは、国王の謁見を受け、華やかな夏でもありました。

◎7～9月の事務総局長の主な動向

7月29～31日　ITU理事会財政計画アドホックグループ（ジュネーブ、スイス）

ITU全権委員会議における2004年～2007年ITU財政計画の議論を促進するために、ITUの収入と支出のバランスを図るためのオプションを用意することを目的に当アドホックグループが開催されました。ITUの活動が増え、ITUのリザーブアカウントがこれまでの最低レベルまでに減少するなど厳しい状況が想定されるなかで、ITUの各種会議の期間短縮、翻訳・配布文書の見直し、組織の効率化など支出の削減可能性のあるオプション案や収入の拡大案をまとめました。これを基に、全権委員会議で議論して、財政計画がまとめられる予定です。

8月12～13日　CITEL（米州電気通信会議）総会（ワシントン、米国）

北米および南米の35カ国で構成されるCITELの総会が開催され、そのオープニングスピーチの依頼を受け出席しました。政府高官のほかに各国の事業者の総裁らも出席していて、最近の状況についてハイレベルな意見交換ができる良い機会となりました。また、総会の中では世界情報社会サミット（WSIS）のセッションが設けられ、キーノートスピーチとしてサミットの意義や情報社会への期待などを説明し、各国代表のパネリストらが米州としてサミットにどのように貢献するのかなど意見交換を行いました。

また、同機会を利用して、米国政府高官からも接触があり、ITU全権委員会議のための事前の意見交換を行いました。

8月29日　ボツワナ電気通信局（BTA）開所式（ハボローネ、ボツワナ）

ボツワナが設置した電気通信規制体のBTA（Botswana Telecommunications Authority）の開所式に昨年より何度となく招待されていたところ、やっと期待に応え出席することができました。同国のモハエ大統領とも謁見し、電気通信への期待などを伺うことができました。ボツワナは、世界で唯一LDC諸国から卒業した国で、同国で採掘されるダイヤを利用して比較的豊かに暮らしている国です。

9月4日　ITU Web編集委員会（ITU）

ITUのWebサイト（www.itu.int）には、ITUのプロジェクト、各種会議の情報、電気通信に関する世界のさまざまなデータベースなどが掲載されていますが、日々新しい情報が追加されサイトの構造が複雑になりユーザーの負担が大きくなっているのではないかと懸念しています。そのため、Webサイトを検索しやすく利用しやすいフォーマットにして、かつITU内部で連携して素早く情報を更新できるよう委員会を設置しました。

9月9～10日　スペイン公式訪問（マドリッド、スペイン）

スペインからの要請があり、スペインを公式訪問し、ホワン・カルロス1世国王に謁見し、外務大臣、科学技術大臣、国家電気通信・情報社会長官とそれぞれ面会しました。スペインは、南米を中心としたスペイン語諸国のリーダーとして電気通信の分野でのプレゼンスも高めようと努力していて、ITUの分担拠出金額を上げることや、世界情報社会サミットへの財政支援を行うなどを検討しています。